

質問12 あなたはストレスを発散するために何をしますか。(○はいくつでも)

1. 運動をする
2. 友人や家族と話す
3. 趣味を楽しむ
4. 何もしない
5. その他 ()

成人

1. あなた自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性別を教えてください。

- 1 男性
- 2 女性

問2 平成28年12月1日現在、満何歳ですか。

満 () 歳

問3 あなたの身長・体重を教えてください。

身長 () cm 体重 () kg

問4 ご家族の構成は次のどれですか。(○は1つ)

- 1 ひとり暮らし
- 2 親と子(二世帯世帯)
- 3 祖父母と親と子(三世帯世帯)
- 4 その他の世帯 ()

問5 あなたの最終学歴について、該当するものに○をつけてください。(○は1つ)

- 1 中学校
- 2 高等学校
- 3 専門学校
- 4 短大
- 5 大学
- 6 大学院
- 7 その他 ()

問6 あなたの現在の主たる職業は何ですか。(○は1つ)

- 1 自営業(農業を含む)
- 2 常勤
- 3 パート・非常勤・内職
- 4 学生
- 5 専業主婦
- 6 無職

問7 あなたは自分の健康状態について、どのように感じていますか。(○は1つ)

- 1 非常に健康である
- 2 まあまあ健康である
- 3 あまり健康でない
- 4 健康でない

2. ストレスや休養についておたずねします。

問29 あなたは、この1か月間に不満・悩み・苦労などストレスを感じたことがありますか。(○は1つ)

- 1 おおいにある
- 2 多少ある
- 3 あまりない
- 4 ほとんどない

問29-1 問29で「1 おおいにある」「2 多少ある」とお答えになった方におたずねします。それはどのような事柄が原因ですか。(○はいくつでも)

- 1 家庭の問題 2 健康の問題 3 経済的な問題 4 仕事上の問題
5 男女関係の問題 6 学校の問題 (いじめ、学業など)
7 その他 ()

問30 あなたは、日ごろの睡眠で疲れがとれていると思いますか。(○は1つ)

- 1 十分とれている 2 まあまあとれている
3 あまりとれていない 4 まったくとれていない

問31 あなたは、眠りを助けるために、睡眠剤や安定剤などの薬やアルコール飲料を使いますか。(○は1つ)

- 1 使わない 2 めったに使わない 3 ときどき使う 4 常に使う

問32 あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止めてくれる方、耳を傾けてくれる人はいますか。

- 1 いる 2 いない

問32-1 問32で「1 いる」と答えた方におたずねします。

それはどなたですか。

- 1 同居の親族 (家族) 2 同居していない親族 3 友人
4 会社の上司や同僚 5 学校の先生 6 カウンセラー
7 医師 (医療関係者) 8 その他 ()

問33 あなたは、日常生活での悩みやストレスを解消するために、よく行うことは何ですか。(○はいくつでも)

- 1 買い物 2 音楽 (カラオケ含む) 3 スポーツ 4 食べる
5 寝る 6 人に相談する 7 お酒を飲む
8 テレビや映画観賞 9 その他 ()

問34 もし、あなたが大きな精神的ストレスを抱えてしまった時に、かかりつけの医療機関の医師に相談しますか。(○は1つ)

- 1 相談する 2 おそらく相談する
3 おそらく相談しない 4 相談しない

問35 あなたは、毎年多くの方が自殺によって亡くなっていることをご存じですか。(○はひとつ)

- 1 知っている 2 知らなかった

調査結果（小中学生）

（1）調査対象者の性別・学年

調査対象者の性別をみると、中学1年生以外は女子より男子が高くなっています（上図）。性別・学年別の実数は、下の図のとおりです。

図. 調査対象者の性別

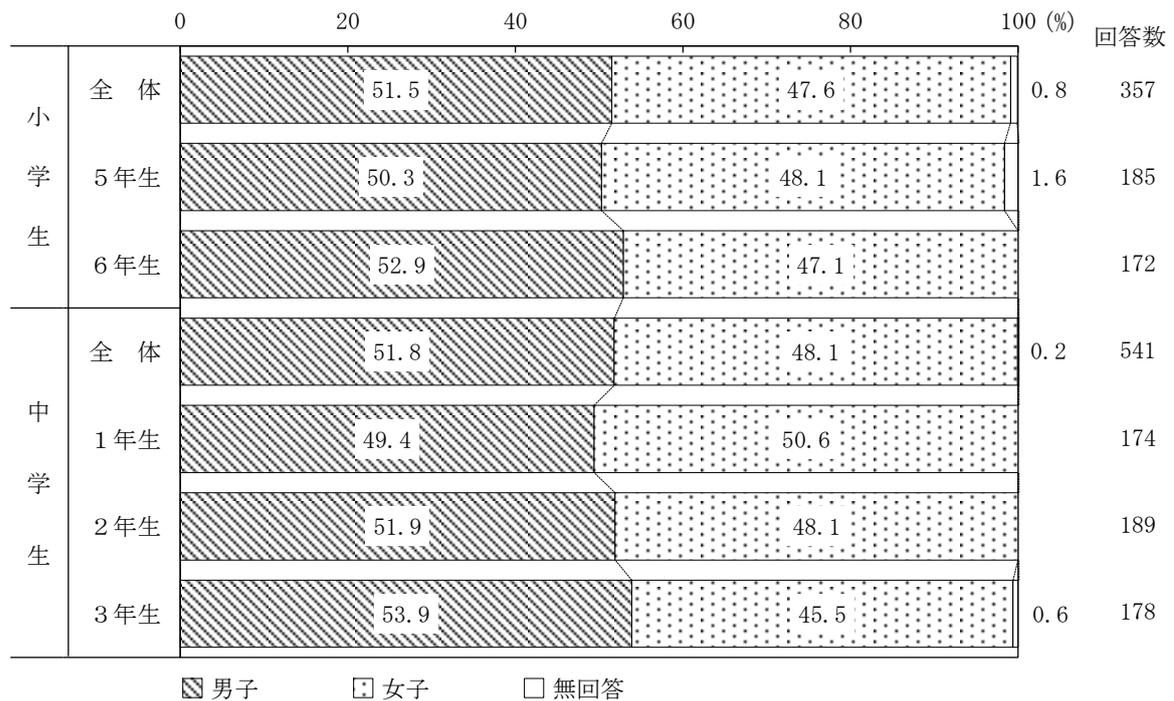


表. 調査対象者の学年

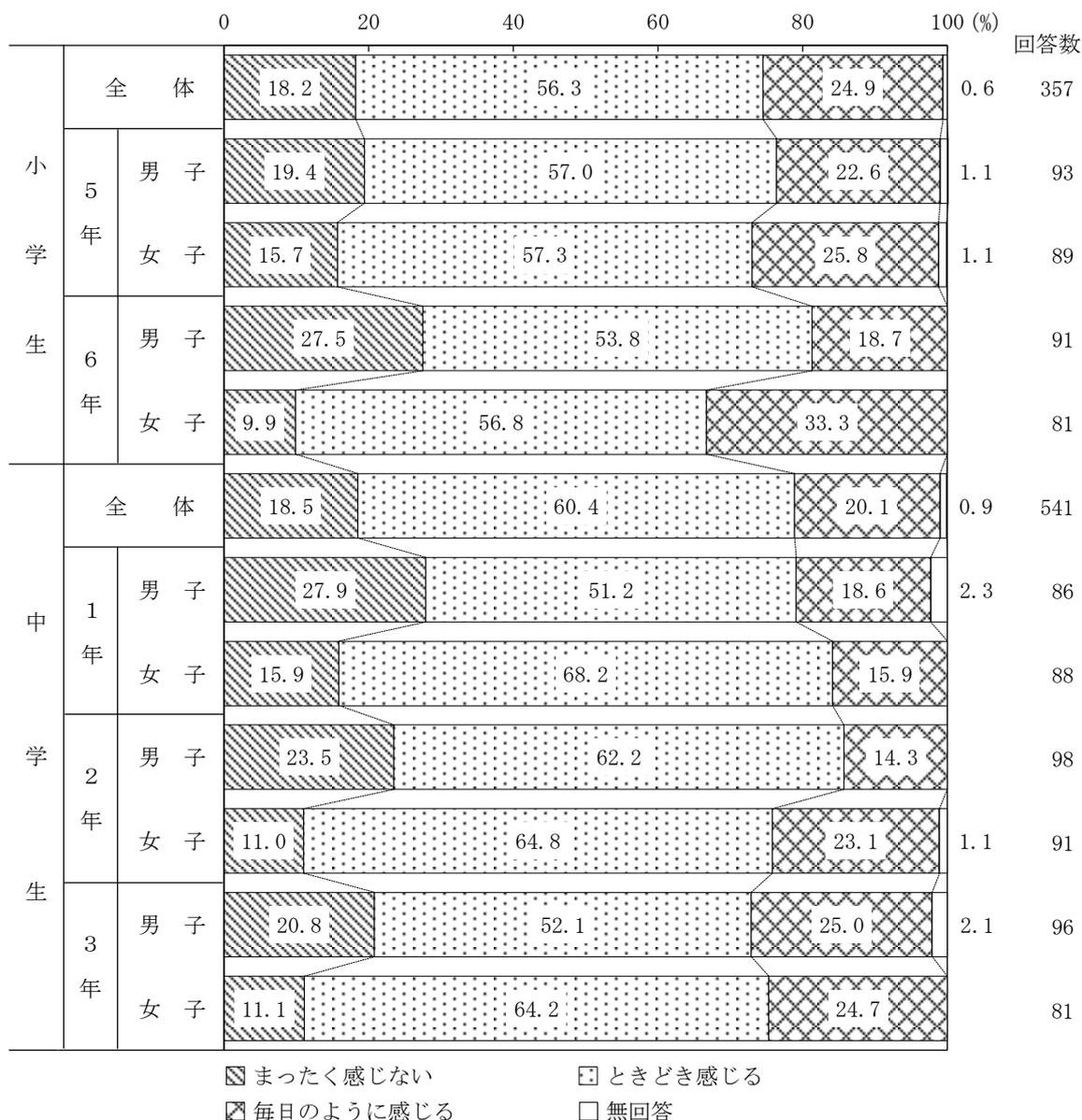
区分	小学生			中学生			
	5年生	6年生	合計	1年生	2年生	3年生	合計
男子	93	91	184	86	98	96	280
女子	89	81	170	88	91	81	260
合計	185	172	357	174	189	178	541

(注) 小学生に性別不詳3人、中学生に性別・学年不詳が1人あり。

(2) ストレスを感じることもあるか

「日常生活の中でストレスを感じることはありませんか」という設問に対して、「毎日のように感じる」と答えたのは、小学生24.9%、中学生20.1%です。「毎日のように感じる」は、小学6年生女子が33.3%と最も高くなっています。

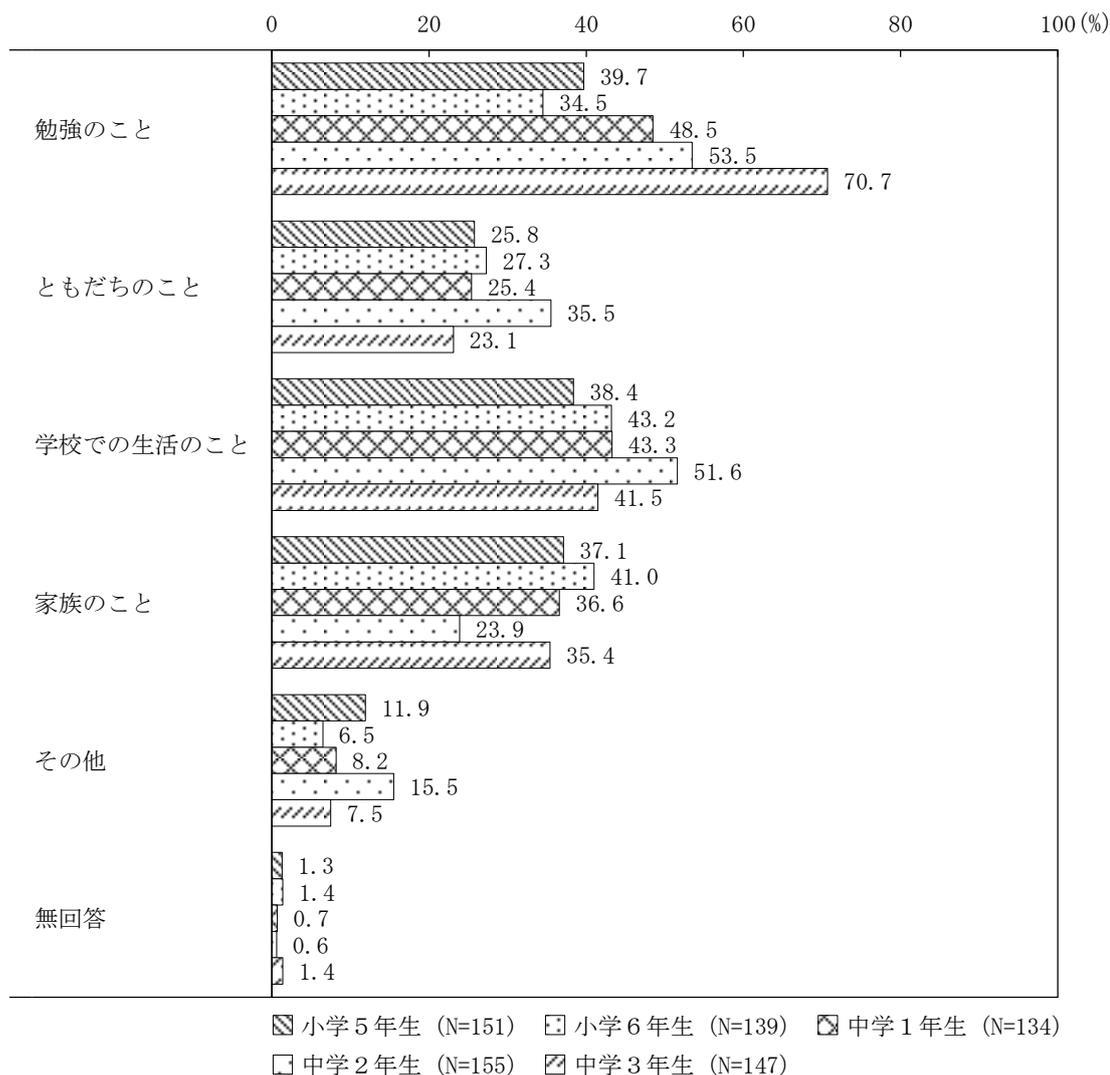
図. ストレスを感じることもあるか



(3) ストレスの要因

(2)でストレスを「ときどき感じる」「毎日のように感じる」と答えた人に、そのストレスの要因を聞いたところ、小学生が「学校での生活のこと」「家族のこと」「勉強のこと」などが高くなっており、中学生は「勉強のこと」「学校での生活のこと」が高くなっています。とくに、高校受験を控えた中学3年生は「勉強のこと」が70%を超える高い率となっています。

図. ストレスの要因 (複数回答)



(4) ストレスの発散方法

(2)でストレスを「ときどき感じる」「毎日のように感じる」と答えた人に、ストレスを発散するために何をするか聞いた結果が下の2つの図です。小学生・中学生とも「好きなことをする」（中学生は「趣味を楽しむ」）が最も高くなっています。「体を動かす」（中学生は「運動をする」）と「好きなことをする」は男子が、「友だちや家族と話す」と「何もしない」は女子が高くなっています。

図. ストレスの発散方法（小学生）

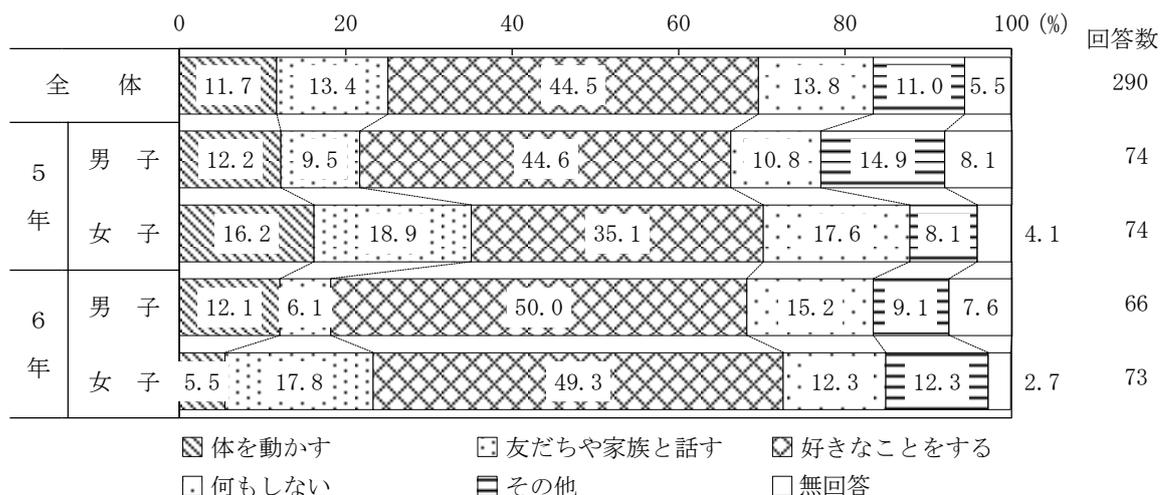


表. ストレスの発散方法（中学生・複数回答） 単位：回答数は人、他は%

区分	回答数	運動をする	友人や家族と話す	趣味を楽しむ	何もしない	その他	無回答	
全体	436	23.2	29.1	62.6	16.5	13.8	0.9	
1年	男子	60	38.3	23.3	60.0	18.3	20.0	3.3
	女子	74	23.0	43.2	64.9	21.6	13.5	-
2年	男子	75	21.3	13.3	76.0	12.0	13.3	1.3
	女子	80	20.0	37.5	50.0	20.0	10.0	-
3年	男子	74	24.3	16.2	62.2	14.9	9.5	-
	女子	72	13.9	40.3	63.9	12.5	18.1	1.4

調査結果（成人）

（1） 調査対象者について

各年齢階層とも男女100人ずつを調査対象にしたのですが、（有効）回答者は、性別では女性、年齢階層別では60代および70歳以上が高くなっています。最も少ないのは、男性が20代、女性が40代です。下図の配布数に対する有効回答率をみると、男女とも60代および70歳以上が60%以上となっています。

図. 調査対象者の性別

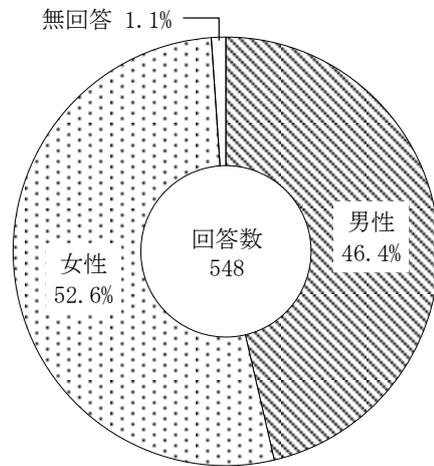


図. 年齢

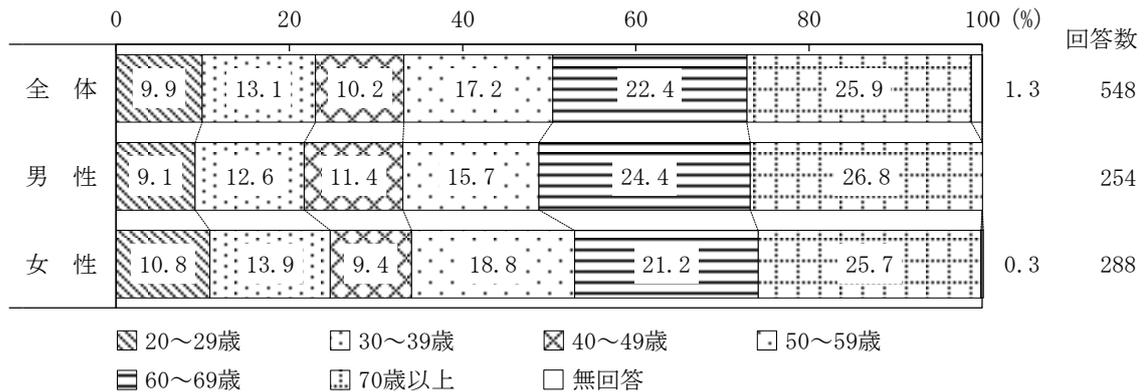
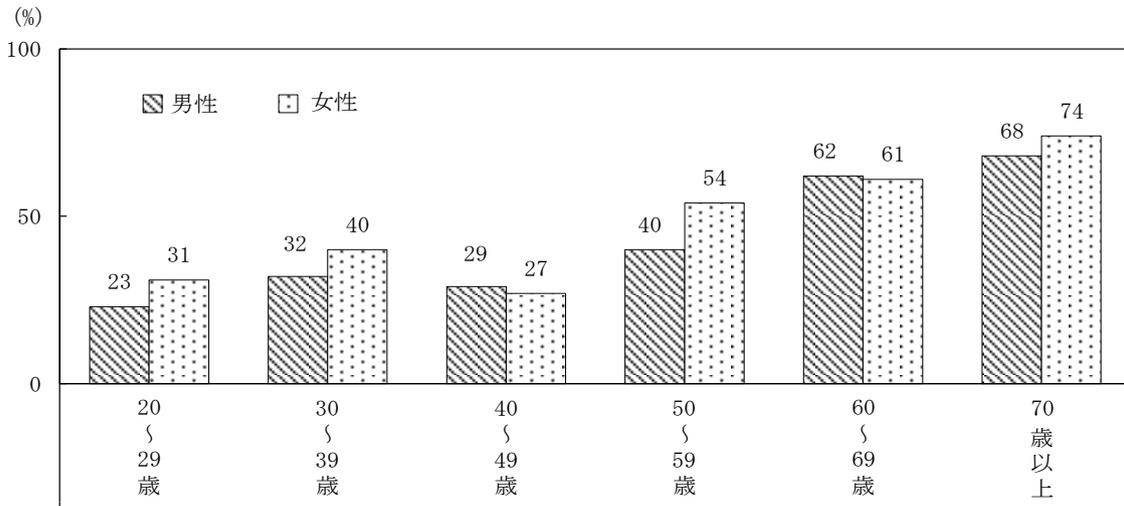


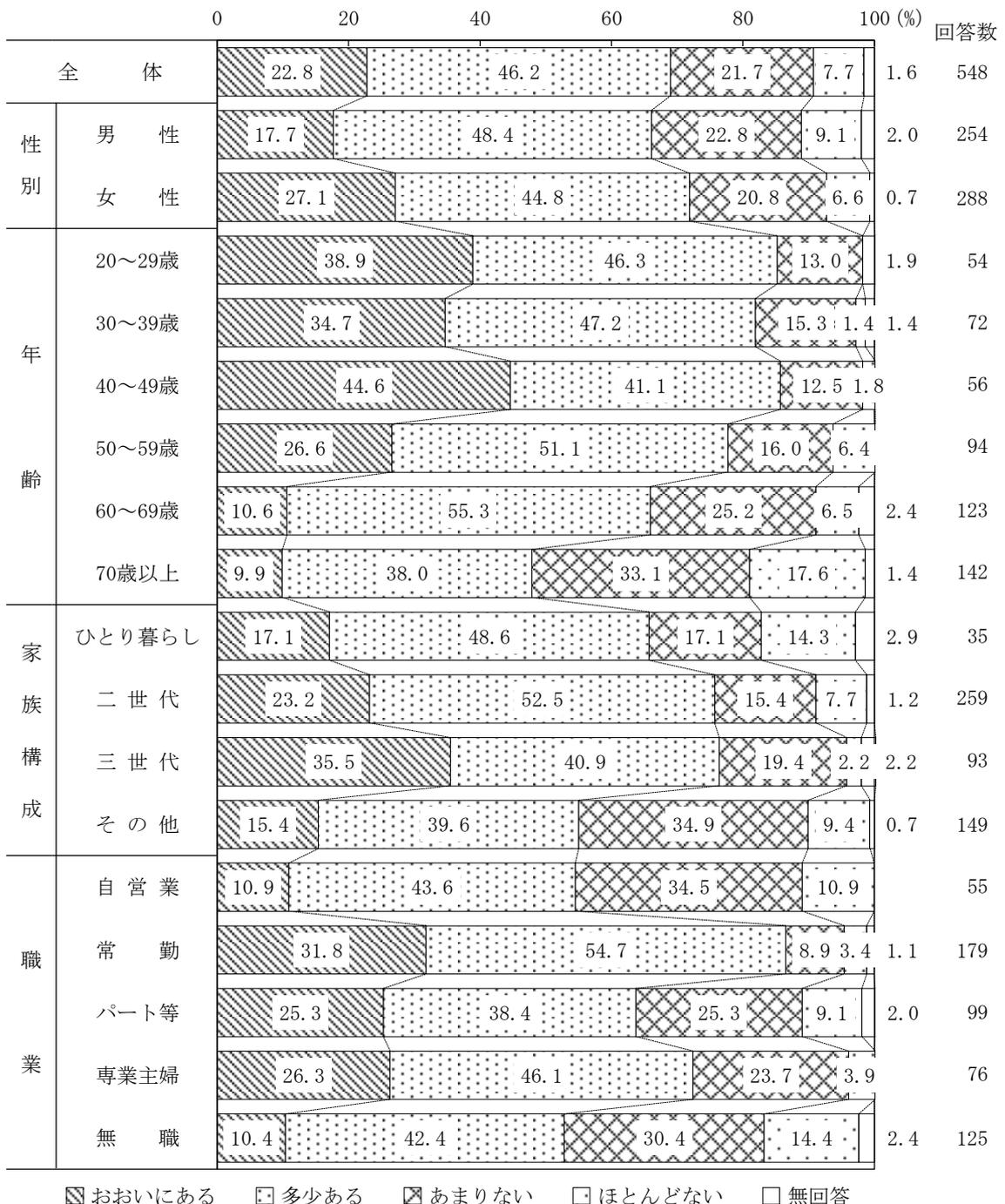
図. 配布数に対する有効回答率



(2) ストレスを感じた事があるか

「あなたは、この1か月間に不満・悩み・苦労などストレスを感じたことがありますか」という設問に対しては、「多少ある」(46.2%)が最も高く、次いで「おおいにある」(22.8%)、「あまりない」(21.7%)などとなっています。「おおいにある」が高いのは、性別では女性、年齢別では40代、家族構成別では三世帯世帯、職業別では常勤となっています。

図. ストレスを感じた事があるか



(3) ストレスの原因

(2)で「おおいにある」「多少ある」と答えた方に、その原因をたずねた結果、「仕事上の問題」(50.5%)が最も高く、次いで「家庭の問題」(35.7%)、「健康の問題」(32.5%)などとなっています。「仕事上の問題」「経済的な問題」は男性、「家庭の問題」「健康の問題」は女性が高いなど、回答者の属性によってかなりの差異がみられます。

表. ストレスの原因(複数回答)

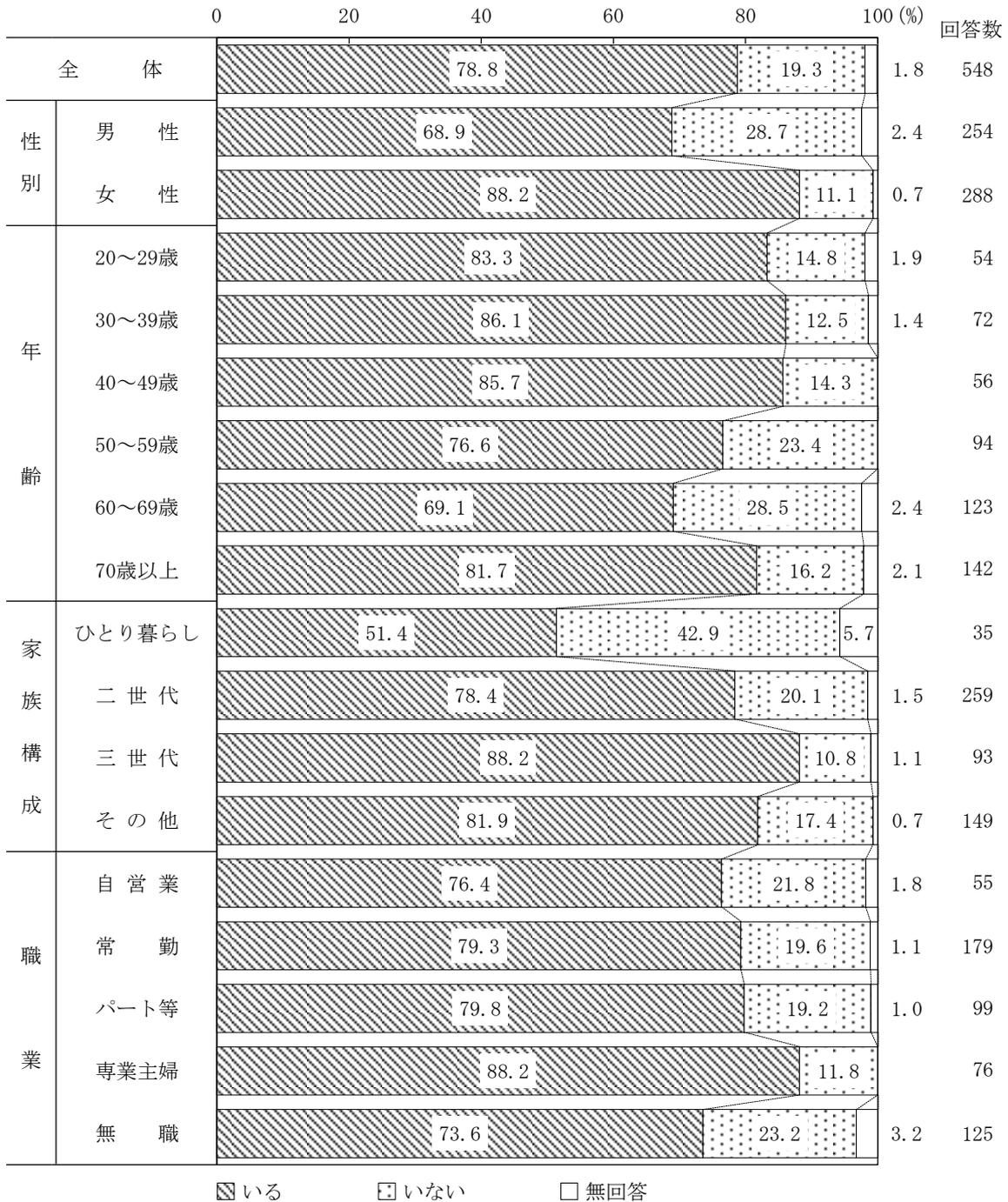
単位: 回答数は人、他は%

区 分		回 答 数	家 庭 の 問 題	健 康 の 問 題	経 済 的 な 問 題	仕 事 上 の 問 題	男 女 関 係 の 問 題	学 校 の 問 題 (いじめ、 学業など)	そ の 他	無 回 答
全 体		378	35.7	32.5	22.5	50.5	4.2	4.2	7.1	2.9
性 別	男 性	168	22.6	29.2	25.6	60.7	3.6	3.0	5.4	1.8
	女 性	207	45.9	35.3	19.8	41.5	4.8	5.3	8.7	3.9
年 齢	20 ~29 歳	46	23.9	13.0	23.9	71.7	4.3	13.0	4.3	2.2
	30 ~39 歳	59	49.2	15.3	30.5	66.1	13.6	6.8	6.8	1.7
	40 ~49 歳	48	25.0	18.8	25.0	77.1	8.3	8.3	4.2	2.1
	50 ~59 歳	73	39.7	32.9	24.7	60.3	1.4	1.4	6.8	1.4
	60 ~69 歳	81	39.5	44.4	19.8	32.1	-	-	4.9	4.9
	70 歳 以上	68	29.4	55.9	13.2	13.2	1.5	1.5	14.7	4.4
家 族 構 成	ひとり暮らし	23	13.0	39.1	26.1	39.1	4.3	8.7	21.7	-
	二 世 代	196	35.7	31.6	26.0	54.1	3.6	5.1	5.1	4.1
	三 世 代	71	42.3	28.2	18.3	60.6	5.6	4.2	5.6	-
	そ の 他	82	34.1	35.4	14.6	36.6	4.9	1.2	9.8	3.7
職 業	自 営 業	30	40.0	33.3	13.3	53.3	-	6.7	3.3	3.3
	常 勤	155	28.4	19.4	21.9	81.9	5.8	1.9	1.3	1.9
	パ ー ト 等	63	36.5	25.4	27.0	55.6	6.3	7.9	9.5	3.2
	専 業 主 婦	55	63.6	54.5	21.8	5.5	3.6	1.8	9.1	3.6
	無 職	66	27.3	54.5	24.2	6.1	1.5	1.5	19.7	4.5

(4) 相談相手はいるか

「あなたの不満や悩みやつらい気持ちを受け止めてくれる人、耳を傾けてくれる人はいますか」という設問に、「いる」と答えたのは78.8%、「いない」と答えたのは19.3%でした。「いない」が高いのは、性別では男性、年齢別では60代、家族構成別ではひとり暮らし、職業別では無職です。

図. 相談相手はいるか



(5) 相談相手

(4)で不満や悩み、つらい気持ちを受け止めてくれる人、耳を傾けてくれる人が「いる」と答えた人に、その相談相手を聞いたところ、「同居の親族（家族）」（73.6%）、「友人」（40.3%）、「同居していない親族」（18.5%）、「会社の上司や同僚」（12.3%）となっており、それ以外の選択肢は3%以下の低い率となっています。

表. 相談相手（複数回答）

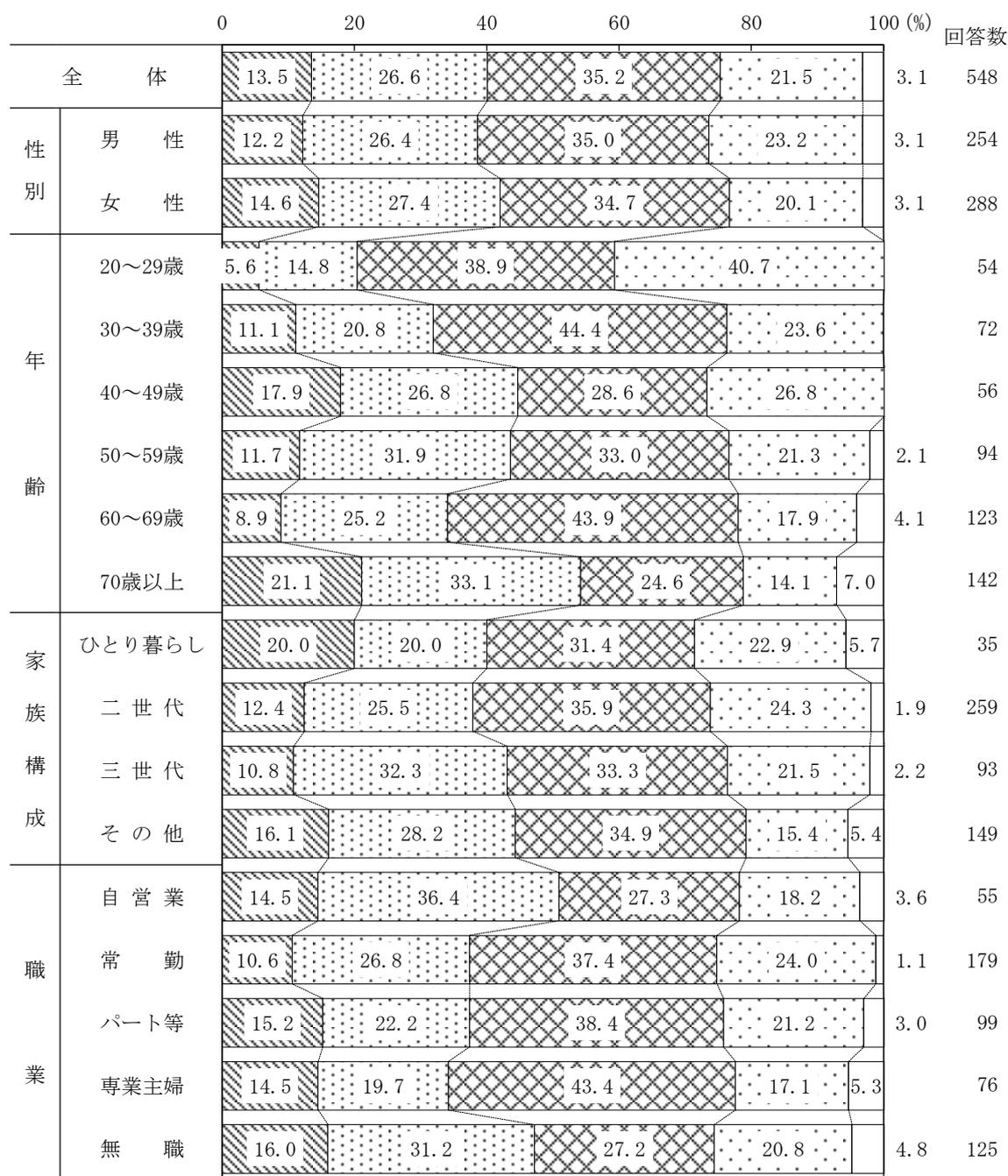
単位：回答数は人、他は%

区 分		回 答 数	同 居 の 親 族 （ 家 族 ）	同 居 し て い な い 親 族	友 人	会 社 の 上 司 や 同 僚	学 校 の 先 生	カ ウ ン セ ラ ー	医 師 （ 医 療 関 係 者 ）	そ の 他	無 回 答
全 体		432	73.6	18.5	40.3	12.3	0.7	1.2	2.8	2.8	0.5
性 別	男 性	175	79.4	9.7	28.0	14.3	0.6	0.6	4.6	1.7	-
	女 性	254	69.7	24.4	48.0	10.6	0.8	1.6	1.6	3.5	0.8
年 齢	20～29歳	45	77.8	13.3	57.8	20.0	4.4	-	-	2.2	-
	30～39歳	62	72.6	29.0	50.0	22.6	-	-	-	3.2	-
	40～49歳	48	81.3	10.4	39.6	25.0	-	2.1	8.3	-	-
	50～59歳	72	73.6	18.1	50.0	19.4	-	1.4	4.2	1.4	-
	60～69歳	85	74.1	21.2	32.9	3.5	1.2	1.2	1.2	4.7	-
	70歳以上	116	69.8	16.4	25.9	-	-	1.7	3.4	3.4	1.7
家 族 構 成	ひとり暮らし	18	22.2	55.6	61.1	5.6	5.6	-	-	5.6	-
	二世 代	203	75.4	15.3	41.4	13.3	-	0.5	3.4	1.5	-
	三世 代	82	72.0	22.0	50.0	18.3	2.4	2.4	3.7	2.4	-
	そ の 他	122	79.5	15.6	27.0	6.6	-	1.6	1.6	4.9	1.6
職 業	自 営 業	42	73.8	4.8	40.5	2.4	-	2.4	4.8	2.4	-
	常 勤	142	73.2	14.1	41.5	27.5	-	0.7	2.1	2.8	-
	パ ー ト 等	79	72.2	21.5	49.4	15.2	1.3	-	-	2.5	-
	専 業 主 婦	67	77.6	35.8	41.8	-	1.5	3.0	4.5	4.5	1.5
	無 職	92	75.0	16.3	23.9	-	-	1.1	4.3	2.2	1.1

(6) 精神的ストレスを抱えた時に医師に相談するか

「もし、あなたが大きな精神的ストレスを抱えてしまった時に、かかりつけの医療機関の医師に相談しますか」という設問には、「相談する」(13.5%)と「おそらく相談する」(26.6%)の合計が40.1%、「おそらく相談しない」(35.2%)と「相談しない」(21.5%)の合計が56.7%でした。「相談する」と「おそらく相談する」の合計が高いのは、年齢別の70歳以上、職業別の自営業と無職です。

図. 精神的ストレスを抱えた時に医師に相談するか

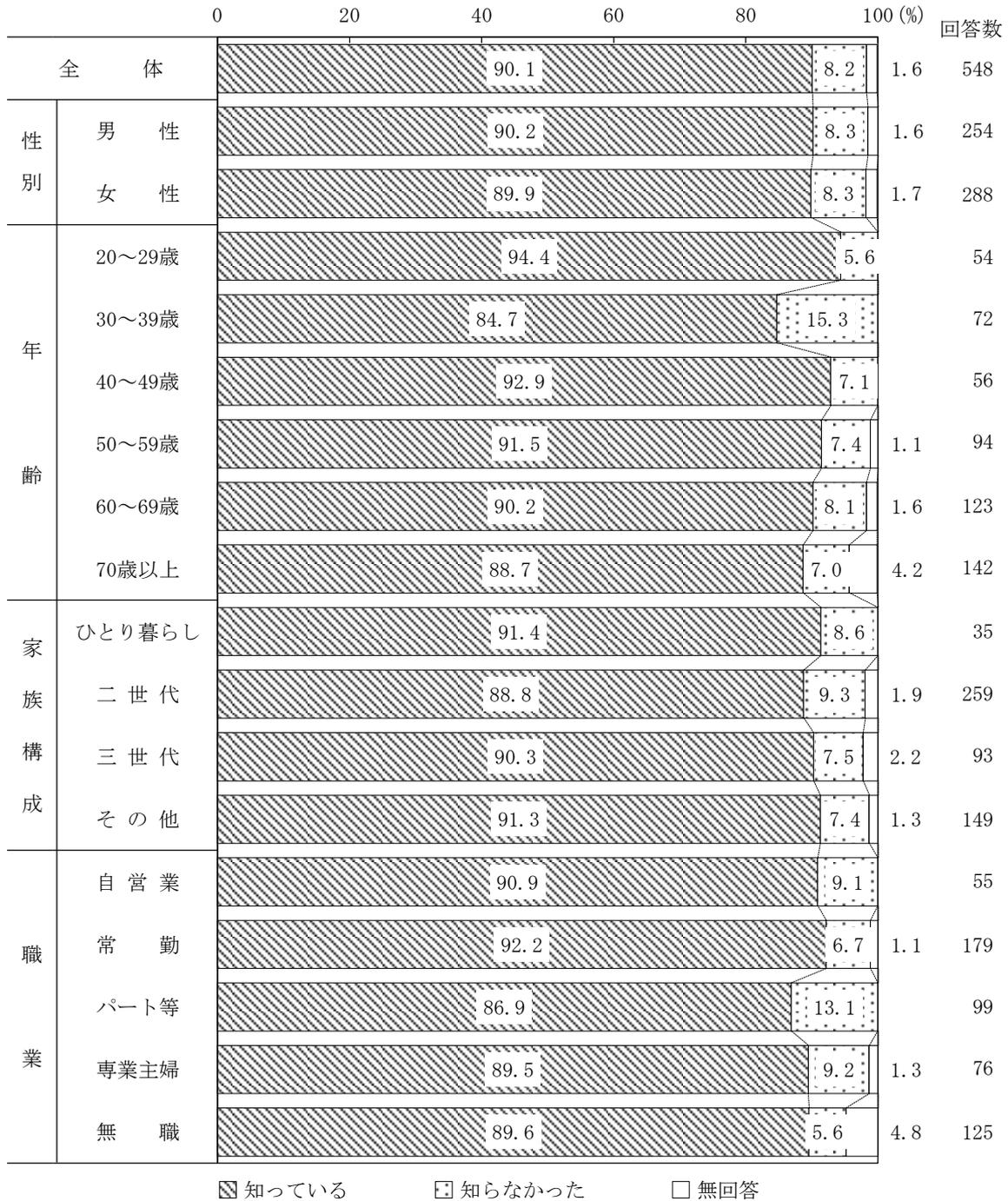


相談する おそらく相談する おそらく相談しない
 相談しない 無回答

(7) 多くの人が自殺していることを知っているか

「毎年多くの方が自殺によって亡くなっていることをご存知ですか」という設問には、90.1%の人が「知っている」と答えています。

図. 多くの人が自殺していることを知っているか

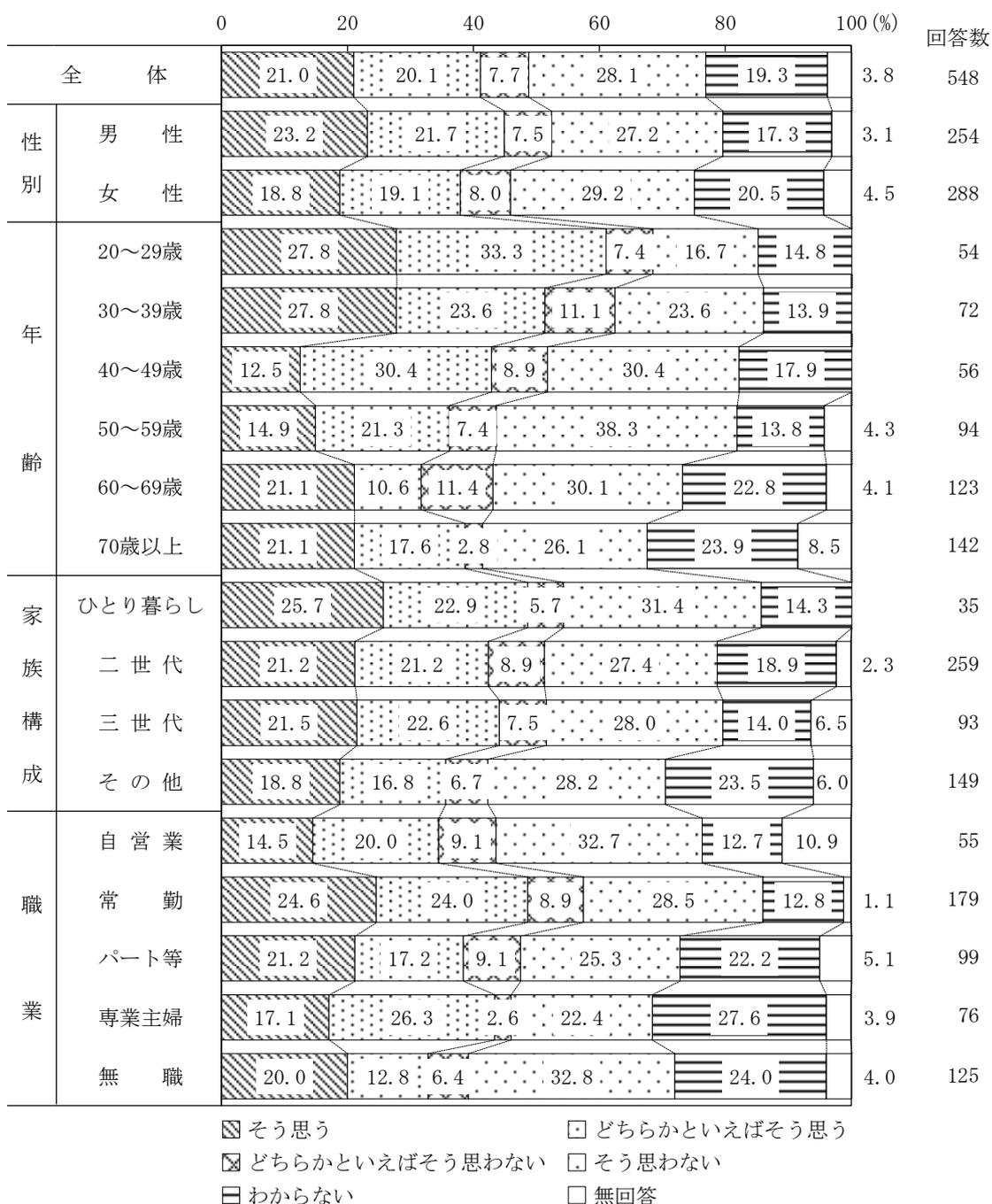


(8) 自殺についてどう思うか

①生死は最終的に本人の判断に任せるべき

「生死は最終的に本人の判断に任せるべき」という考え方に対して、「そう思う」(21.0%)と「どちらかといえばそう思う」(20.1%)の合計が41.1%、「どちらかといえばそう思わない」(7.7%)と「そう思わない」(28.1%)の合計が35.8%です。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が高いのは、性別の男性、年齢別の20代と30代、家族構成別のひとり暮らし、職業別の常勤です。

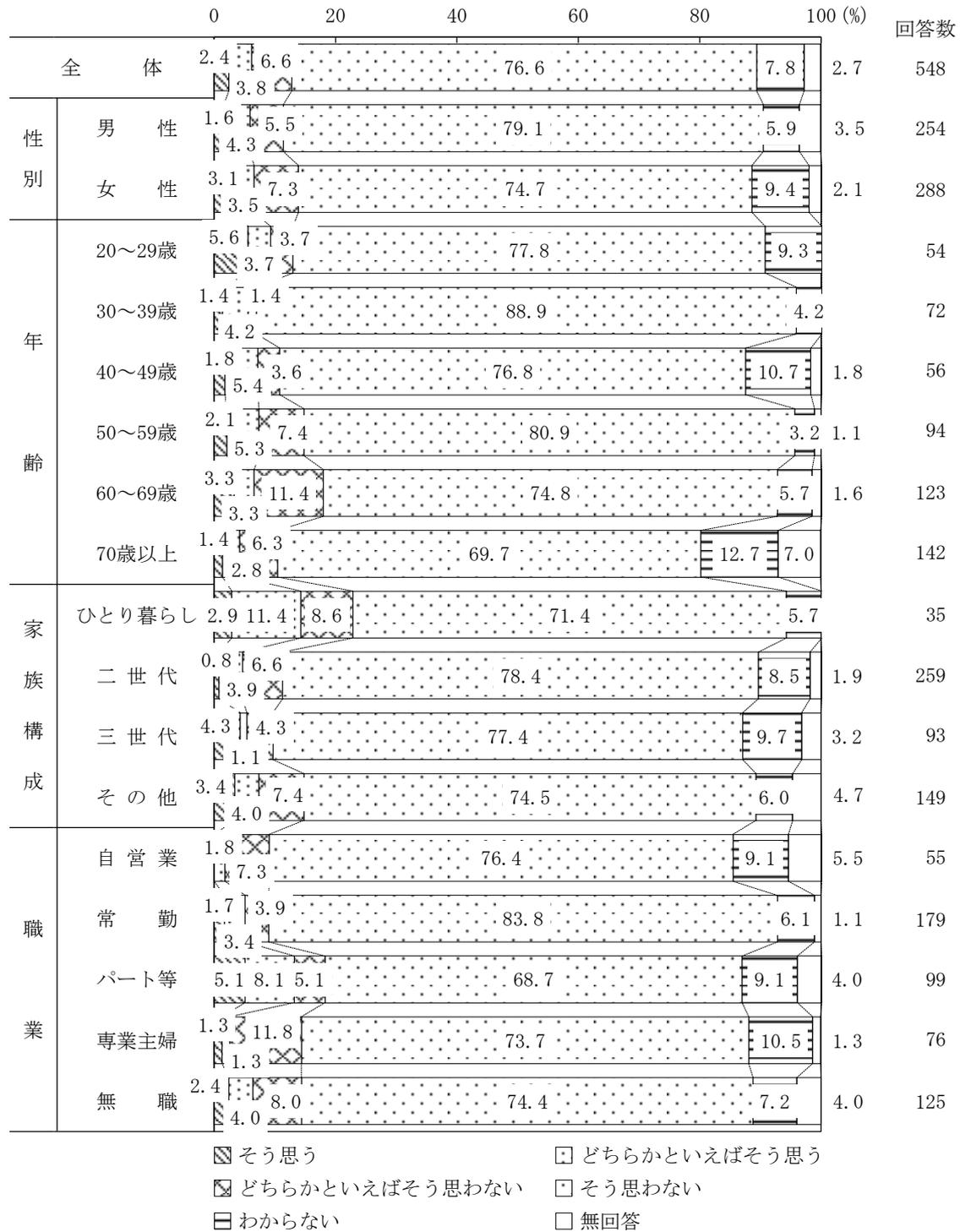
図. 生死は最終的に本人の判断に任せるべき



③ 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方ない

「幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方ない」という考え方に対して、「そう思う」(2.4%)と「どちらかといえばそう思う」(3.8%)の合計は6.2%にすぎません。

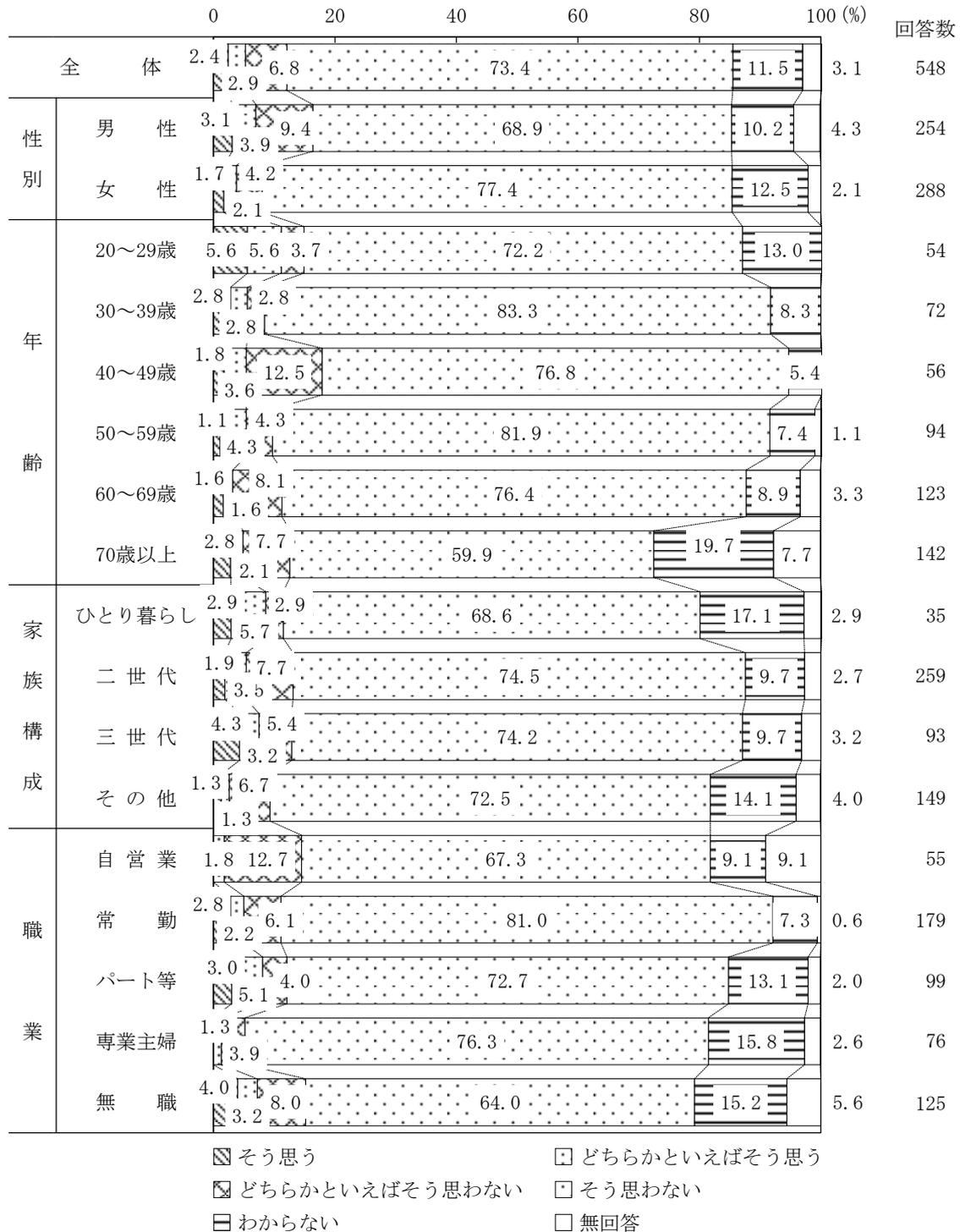
図. 幼い子どもを道連れに自殺するのは仕方ない



④責任をとって自殺することは仕方ない

「責任をとって自殺することは仕方ない」という考え方に対して、「そう思う」(2.4%)と「どちらかといえばそう思う」(2.9%)の合計は5.3%にすぎません。

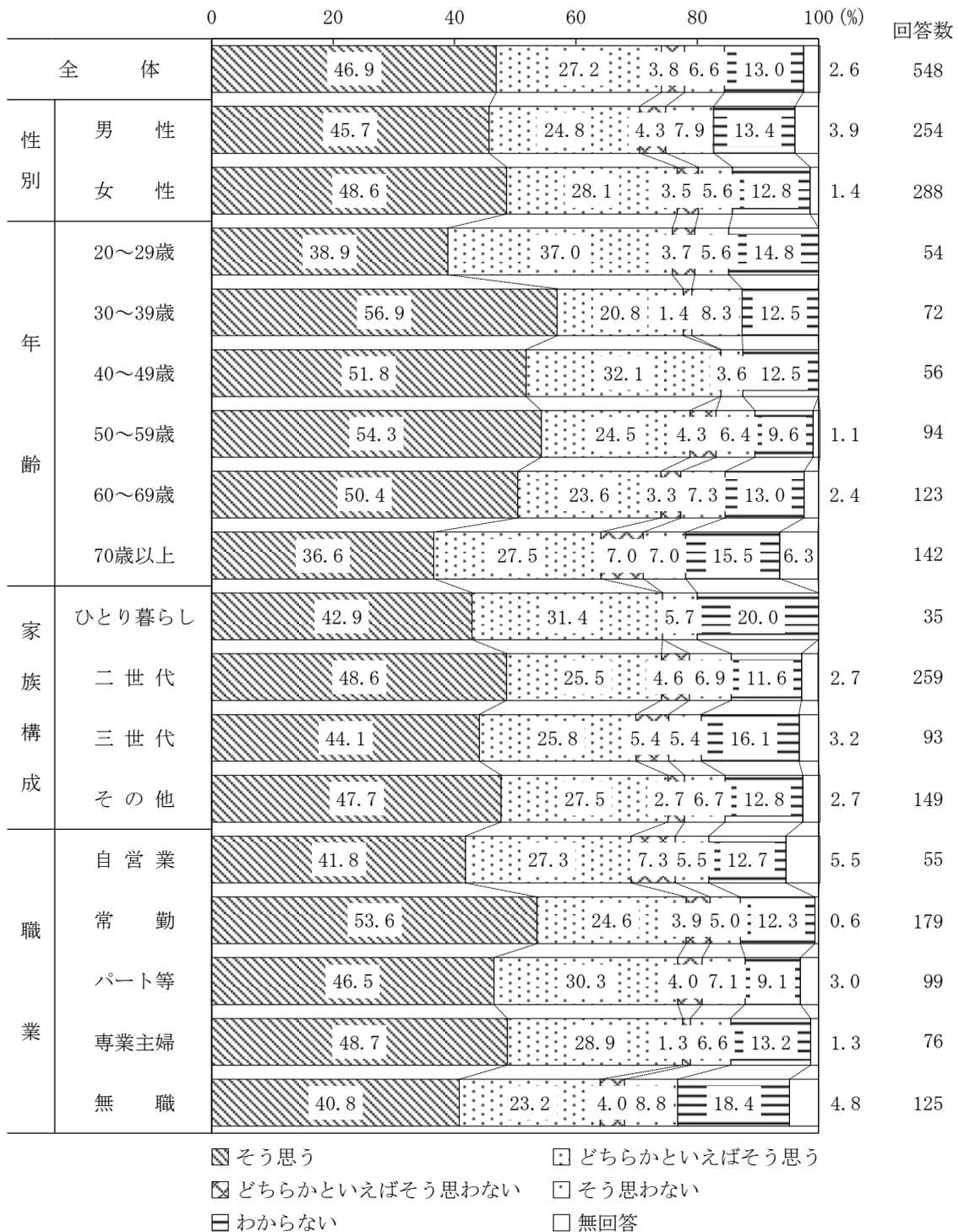
図. 責任をとって自殺することは仕方ない



⑥自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う

「自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う」という考え方に、「そう思う」（46.9%）と「どちらかといえばそう思う」（27.2%）の合計が74.1%を占めています。

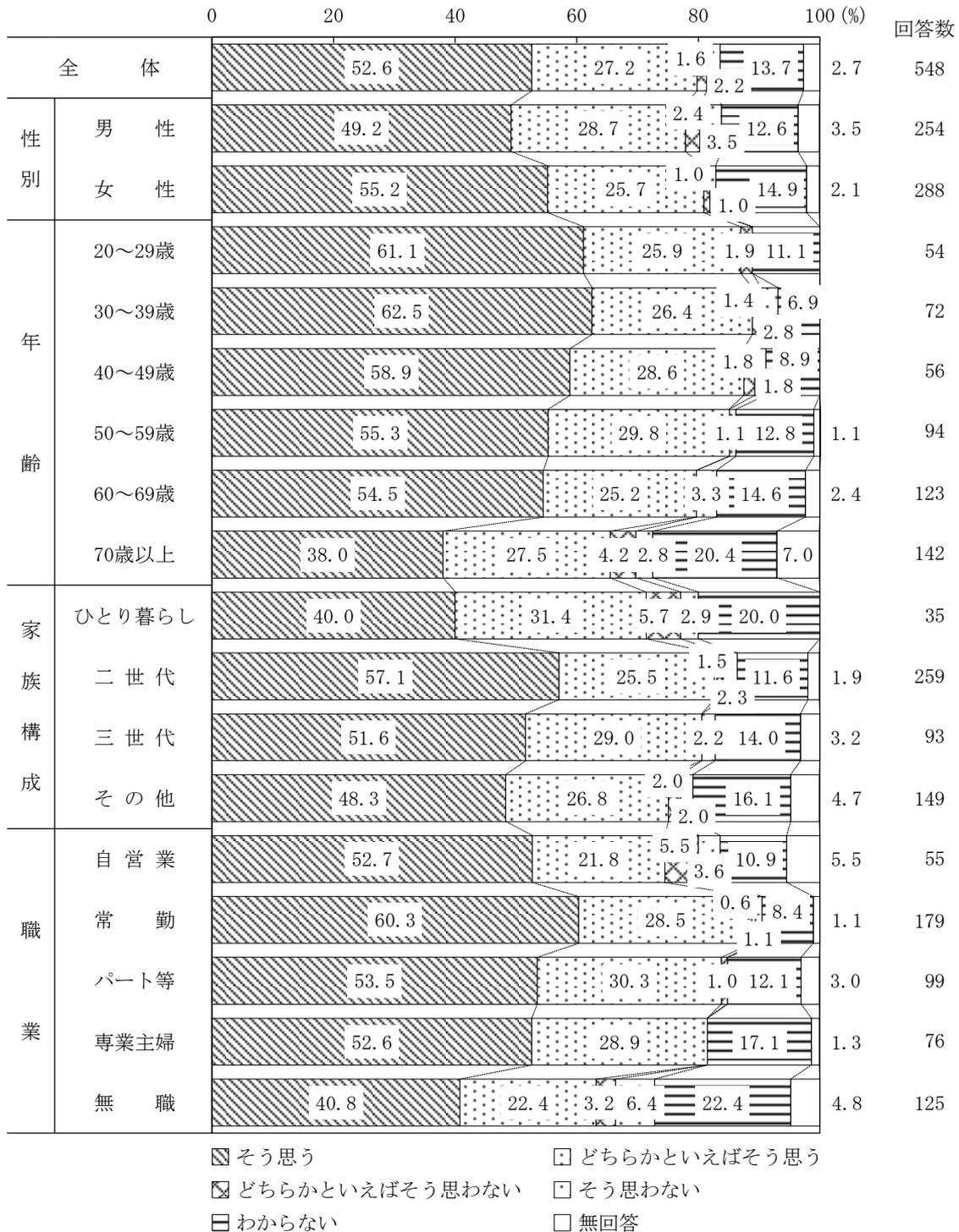
図. 自殺する人は、よほど辛いことがあったのだと思う



⑧多くの自殺者は自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある

「多くの自殺者は様々な問題の中から精神的に追いつめられ、自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある」という考え方には、「そう思う」(52.6%)と「どちらかといえばそう思う」(27.2%)で79.8%を占めています。

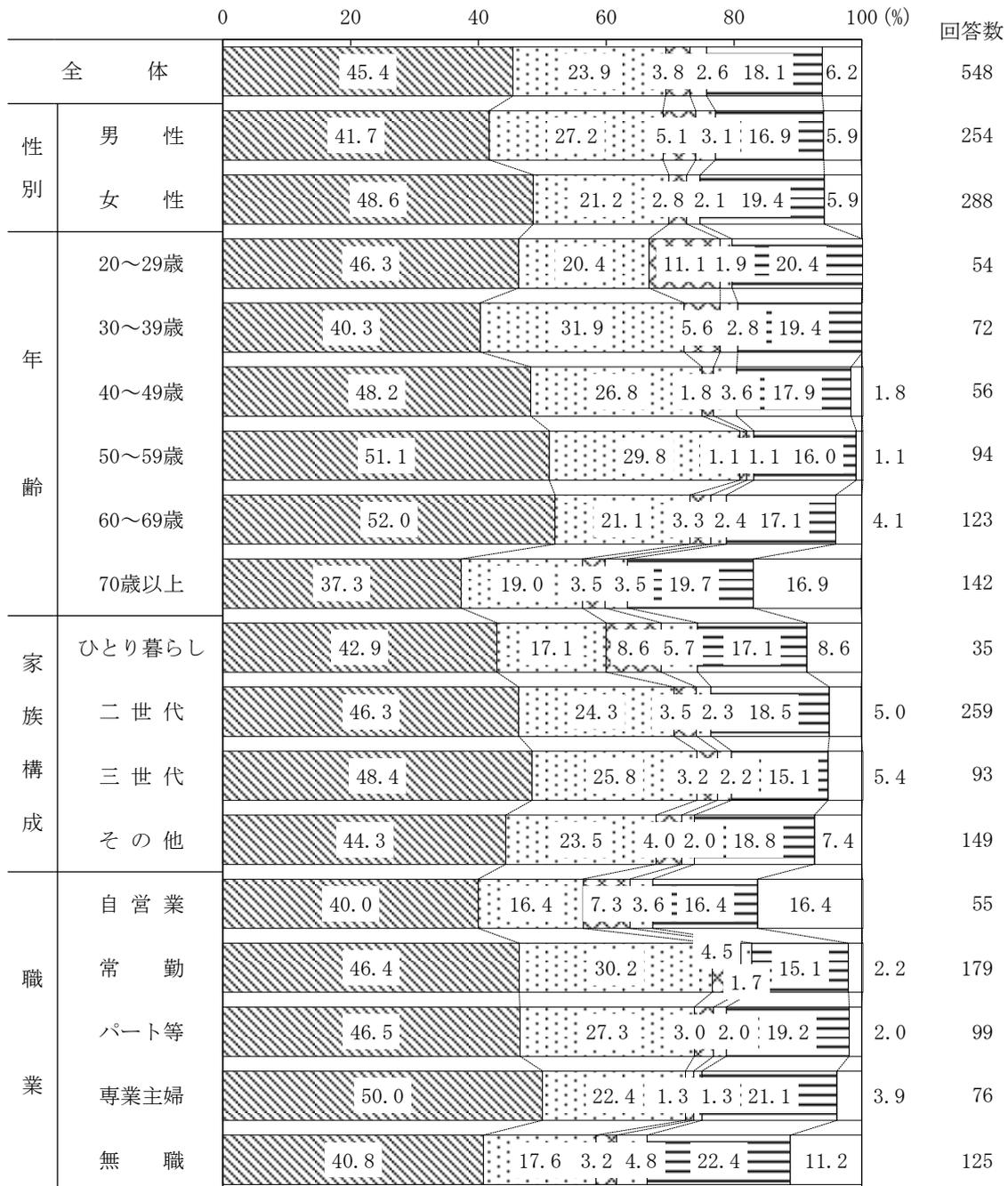
図. 多くの自殺者は自殺以外の解決方法を思いつかない状態にある



⑨自殺しようとする人は何らかのサインを発している

「自殺しようとする人は何らかのサインを発している」という考え方には、「そう思う」(45.4%)と「どちらかといえばそう思う」(23.9%)で69.3%を占め、「どちらかといえばそう思わない」(3.8%)と「そう思わない」(2.6%)の合計は6.4%にすぎません。

図. 自殺しようとする人は何らかのサインを発している

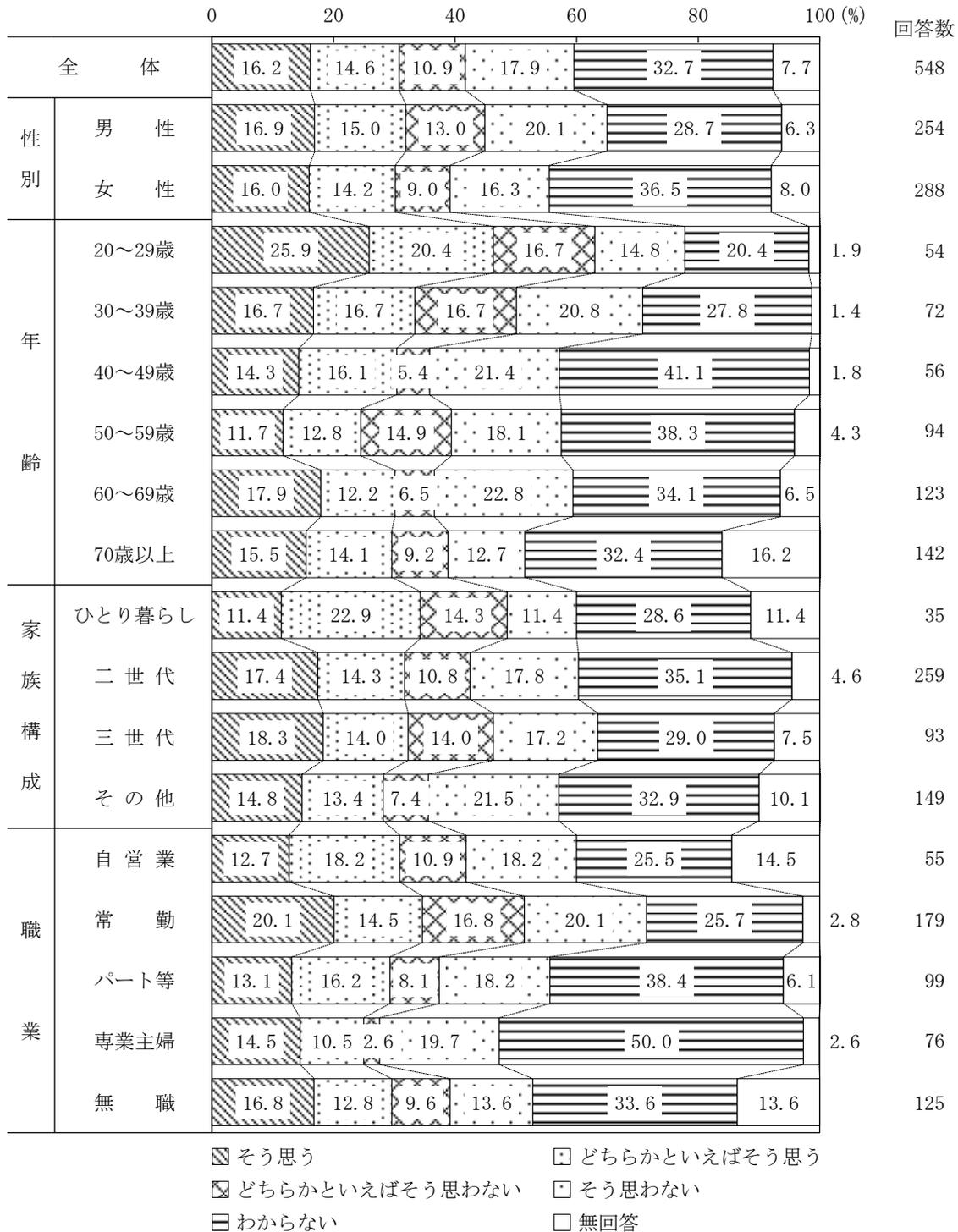


- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- わからない
- 無回答

⑭ 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない

「自殺を口にする人は、本当に自殺はしない」という考え方には、「そう思う」(16.2%)と「どちらかといえばそう思う」(14.6%)の合計が30.8%、「どちらかといえばそう思わない」(10.9%)と「そう思わない」(17.9%)の合計が28.8%、「わからない」が32.7%となっています。

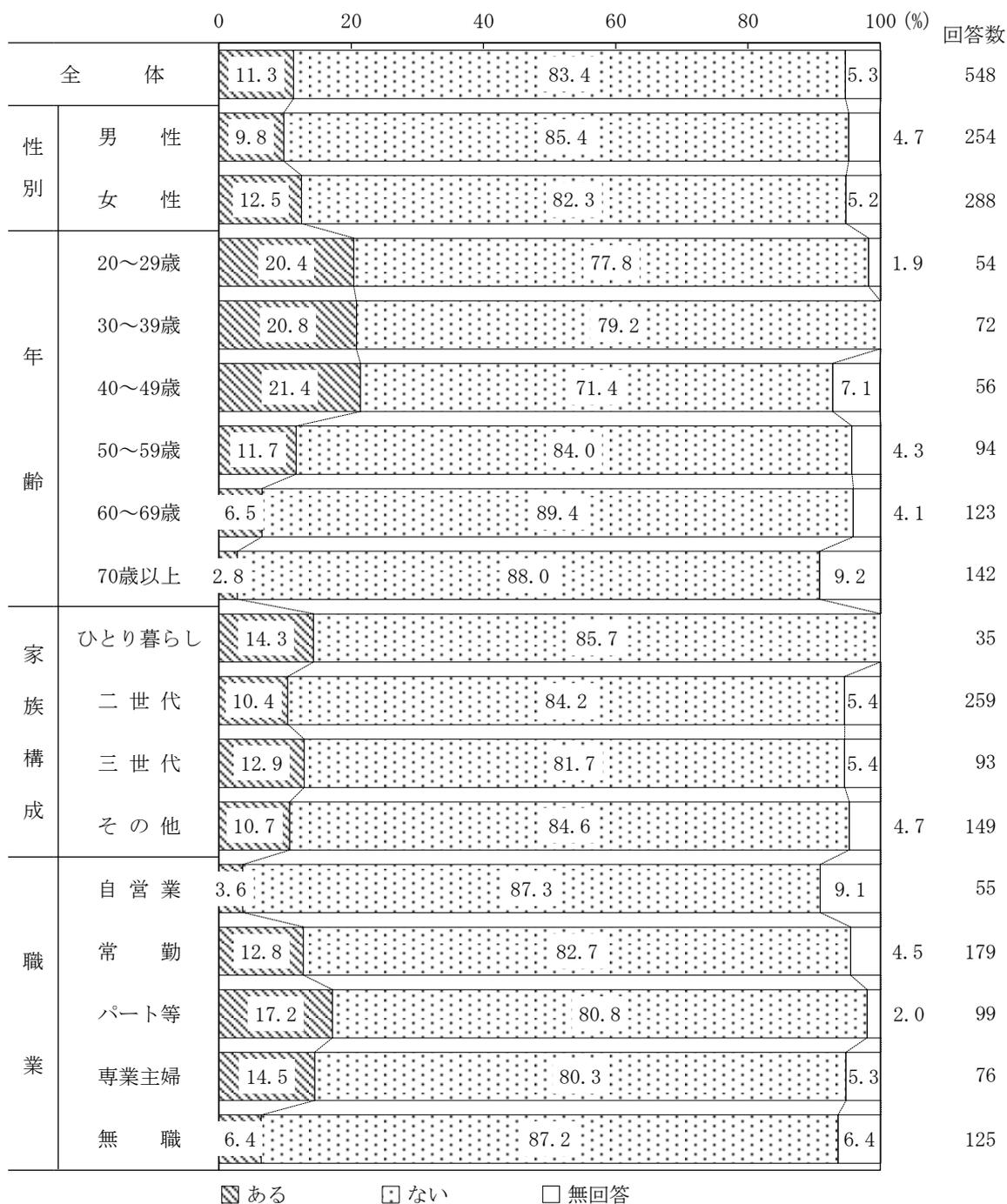
図. 自殺を口にする人は、本当に自殺はしない



(9) 自殺したいと考えたこと

これまでに「本気で自殺したい」と考えたことが「ある」のは11.3%です。年齢別の20～40代は、「ある」が20%を超えています。厚生労働省の「平成28年度自殺対策に関する意識調査」結果では、「本気で自殺したい」と思ったことが「ある」と答えたのは全体で23.6%でしたから、これよりはかなり低い数値となっています。

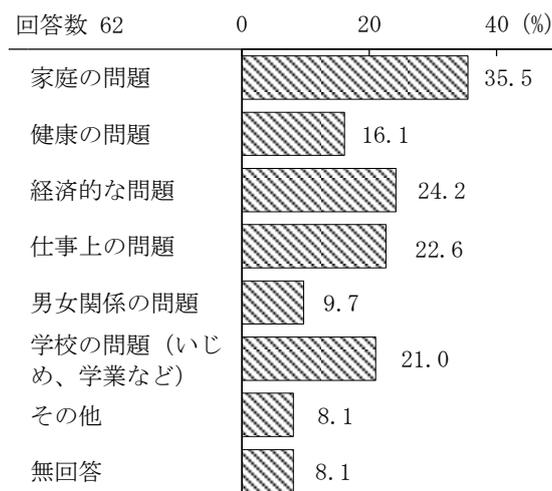
図. 自殺したいと考えたこと



(10) 自殺を考えた原因

(3)でこれまでに本気で自殺したいと考えたことが「ある」と答えた62人に、その原因をたずねた結果が右図です。最も高いのが「家庭の問題」(35.5%)、次いで「経済的な問題」(24.2%)、「仕事上の問題」(22.6%)、「学校の問題(いじめ、学業など)」(21.0%)などとなっています。

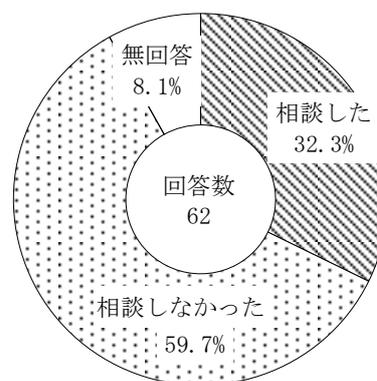
図. 自殺を考えた原因



(11) 自殺を考えた時だれかに相談したか

本気で自殺を考えた時にだれかに相談したかをたずねたところ、「相談した」が32.3%、「相談しなかった」が59.7%でした。

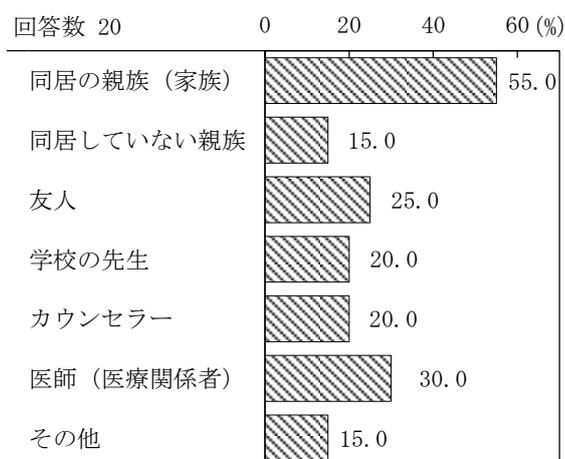
図. 自殺を考えた時だれかに相談したか



(12) 自殺を考えた時の相談相手

自殺を考えた時に「相談した」と答えた20人にその相談相手をたずねた結果が右図です。「同居の親族(家族)」(55.0%)が最も高く、次いで「医師(医療関係者)」(30.0%)、「友人」(25.0%)などとなっています。

図. 自殺を考えた時の相談相手



(注) 「会社の上司や同僚」という選択肢には該当がなかった。

(13) 身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応

「もし身近な人から『死にたい』と打ち明けられた時、どのように対応しますか」という設問に対しては、「耳を傾けてじっくりと話を聞く」の74.3%が最も高く、次いで「相談機関に相談するよう勧める」(39.6%)、「『死んではいけない』と説得する」(37.0%)などとなっています。

表. 身近な人から「死にたい」と打ち明けられた時の対応 単位：回答数は人、他は%

区 分		回 答 数	相 談 に の ら な い 、 も し く は 話 題 を 変 え る	「 頑 張 っ て 」 と 励 ま す	説 得 す る	「 死 ん で は い け な い 」 と 叱 る	「 バ カ な 事 を 考 え る な 」 と 叱 る	話 を 聞 く	耳 を 傾 け て じ っ く り と 話 を 聞 く	医 療 機 関 に か か る よ う 勧 め る	相 談 機 関 に 相 談 す る よ う 勧 め る	何 も し な い	そ の 他	無 回 答
全 体		548	2.7	12.2	37.0	17.3	74.3	24.8	39.6	0.7	3.6	4.2		
性 別	男 性	254	2.0	16.1	35.0	23.2	67.3	24.4	40.2	0.8	2.8	5.5		
	女 性	288	3.5	9.0	39.2	12.5	80.9	25.7	39.6	0.7	4.5	2.4		
年 齢	20～29歳	54	3.7	9.3	33.3	9.3	77.8	14.8	20.4	1.9	3.7	1.9		
	30～39歳	72	-	2.8	33.3	15.3	88.9	26.4	41.7	-	8.3	1.4		
	40～49歳	56	1.8	3.6	37.5	12.5	85.7	32.1	35.7	-	7.1	1.8		
	50～59歳	94	3.2	8.5	34.0	19.1	81.9	31.9	46.8	2.1	1.1	2.1		
	60～69歳	123	4.9	17.1	38.2	21.1	67.5	22.8	43.9	0.8	2.4	3.3		
	70歳以上	142	2.1	19.7	42.3	19.0	63.4	23.2	40.1	-	2.8	8.5		
家 族 構 成	ひとり暮らし	35	-	5.7	25.7	17.1	68.6	25.7	37.1	-	5.7	8.6		
	二世 代	259	2.7	11.6	35.9	16.2	75.7	27.4	40.5	1.2	2.7	3.1		
	三世 代	93	2.2	6.5	36.6	12.9	80.6	30.1	40.9	-	5.4	3.2		
	そ の 他	149	3.4	18.1	43.0	21.5	70.5	18.8	39.6	0.7	4.0	4.7		
職 業	自 営 業	55	1.8	12.7	41.8	23.6	70.9	25.5	45.5	-	-	3.6		
	常 勤	179	2.2	8.9	29.6	19.0	79.3	25.7	36.3	0.6	3.9	2.8		
	パ ー ト 等	99	1.0	10.1	47.5	15.2	78.8	19.2	43.4	-	3.0	3.0		
	専 業 主 婦	76	2.6	11.8	40.8	10.5	77.6	28.9	44.7	1.3	7.9	3.9		
	無 職	125	5.6	19.2	36.8	20.0	63.2	25.6	36.8	1.6	3.2	6.4		

(14) 自殺を減少させるために重要なこと

自殺を減少させるために重要と思われることとしては、「学校での『いのちの教育』の充実」(58.9%)、「地域での『こころの健康相談』など、気軽に相談できる場所の充実」(40.9%)、「精神科医等の専門医へ受診しやすい環境づくり」(39.6%)、「職場でのこころの健康づくりの推進」(39.4%)などが高い率を示しています。

表. 自殺を減少させるために重要なこと

単位：回答数は人、他は%

区 分	全 体	性 別		年 齢						家 族 構 成			
		男 性	女 性	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以上	ひとり 暮らし	二世 代	三世 代	そ 他
回答数	548	254	288	54	72	56	94	123	142	35	259	93	149
学校での「いのちの教育」の充実	58.9	59.8	57.6	40.7	63.9	51.8	58.5	69.1	57.0	51.4	57.5	58.1	61.7
職場でのこころの健康づくりの推進	39.4	39.8	39.2	40.7	52.8	51.8	38.3	33.3	33.8	34.3	40.5	41.9	36.9
地域での「こころの健康相談」など、気軽に相談できる場所の充実	40.9	44.9	37.5	33.3	40.3	39.3	44.7	44.7	39.4	42.9	41.7	38.7	40.3
自死遺族の支援の充実	9.1	9.4	8.7	9.3	9.7	17.9	8.5	8.9	5.6	-	10.8	11.8	5.4
自殺未遂者支援の充実	13.5	12.2	14.6	13.0	13.9	17.9	9.6	14.6	13.4	2.9	13.1	14.0	15.4
かかりつけ医（精神科以外）のうつ病などに対する診療能力の向上	25.4	23.6	26.7	25.9	25.0	28.6	21.3	26.8	25.4	20.0	25.5	25.8	25.5
かかりつけ医・精神科医・相談機関などのネットワークづくり	27.4	24.0	29.9	25.9	27.8	30.4	31.9	28.5	21.8	31.4	27.4	30.1	24.2
精神科医等の専門医へ受診しやすい環境づくり	39.6	37.4	41.7	42.6	45.8	48.2	31.9	44.7	33.1	34.3	43.2	44.1	31.5
自殺やこころの健康に関する普及啓発	19.3	20.9	17.7	20.4	19.4	32.1	17.0	18.7	15.5	8.6	19.3	26.9	16.1
窓口職員のスキルアップ	15.5	16.1	15.3	11.1	13.9	23.2	20.2	15.4	12.7	8.6	16.6	16.1	15.4
債務相談の充実	12.4	16.5	9.0	11.1	12.5	16.1	14.9	13.0	9.9	14.3	13.1	10.8	12.1
人材（ゲートキーパー）の養成	10.0	11.0	9.4	7.4	9.7	19.6	11.7	7.3	9.2	8.6	10.8	14.0	6.7
労働に関する支援（就労、リストラ、過重）	33.0	31.5	33.3	40.7	45.8	39.3	38.3	26.8	21.1	17.1	35.5	35.5	28.9
柵やガードの設置など安全対策	7.1	7.1	6.9	14.8	9.7	7.1	6.4	5.7	4.2	2.9	7.3	11.8	4.0
経済的な支援	21.7	22.4	20.8	24.1	23.6	28.6	22.3	21.1	16.9	8.6	22.8	25.8	20.1
自殺相談等の専門機関の設置	28.5	26.0	30.2	20.4	27.8	28.6	30.9	34.1	24.6	31.4	29.3	24.7	27.5
駆け込みができるシェルターの設置	28.3	26.0	30.9	20.4	27.8	35.7	30.9	32.5	24.6	22.9	29.0	32.3	26.8
24時間電話相談の設置	34.5	35.8	33.3	14.8	36.1	37.5	44.7	38.2	30.3	28.6	37.5	29.0	33.6
その他	4.0	4.7	3.5	9.3	5.6	8.9	2.1	0.8	3.5	5.7	5.0	3.2	2.7
無回答	8.2	8.3	8.3	5.6	2.8	7.1	6.4	4.9	16.2	8.6	7.7	7.5	9.4